

## 魅力溢れる街いわきを見つめて ～都市構造とマスタープランから考える～

国際総合学類2年 野口凜々子

### (1) 私の選んだ都市「いわき市」とその理由について

私は今回本レポートの題材にする都市として、福島県の最南東に位置する「いわき市」と選択した。

今回、いわき市を選択した理由については様々な理由がある。まず一つ目に、あまりにも大きな市であるということだ。いわき市は私の出身地であり、私は生まれてから高校を卒業するまでの間をいわき市で過ごした。そして大学入学と同時に茨城県つくば市に引っ越してきたのだが、そこで一つ驚いたことがある。いわき市というのはとても大きな市であるために、ほとんどすべてのことがいわき市内で完結してしまっているのである。私は今まで自分の住んでいる市から簡単に外に出ることができるという感覚がなかった。高校選択なども、いわき市以外の高校に行く選択肢はほぼ無いも同然であった。しかし、茨城に来てからその考え方は変わり、常磐線の駅を9つすぎないと出ることができないいわき市と違って駅ごとに市が変わる茨城県にもだいぶ慣れてきた。同時に、今までのいわきからほとんど出ることなく18年間を過ごしてきたということに違和感を覚え、あまりにも大きすぎるいわき市についてもっと詳しく見てみたいと考えた。

次に、いわき市は私が過ごしてきた18年間でいくつかの災害に見舞われたということだ。2011年の東日本大震災とその津波被害はもちろん、その後の原発事故の放射線被害、そして2019年の台風による大打撃。海や川、森などの様々な自然や資源に恵まれているからこそ災害は多く被害も大きいのだ。震災学習については学校の授業でも何度も行われてきており、被害の語り継ぎや復興については詳しく学んだ。しかし、地理的に分析したことはなかったので、今回このレポートを機にいわき市と災害について見直したいと考えた。

そして、いわき市というのは都市として様々な面を持っているということだ。自然や土地に恵まれているため農業や工業、そして漁業のような産業も盛んであるし、発電所や工場が並ぶ地区もある。そのうえ、観光地としても有名だ。このように都市として様々な特色を持ち、第1から第3次産業までのすべてを一つの市で網羅しているいわき市は多角的に分析するのにピッタリであると考えた。

これらの理由により私は福島県いわき市をレポートの題材として選んだ。広い面積を持ちその中で様々な特色があるいわき市は魅力的な分、問題も多い。今一度いわき市をしっかりと見つめなおし、本レポートがいわきのさらなる発展につながるものになるとよいと考えている。

### いわき市の市町村マスタープラン名「いわき市の都市計画に関する基本的な方針」

### (2) いわき市の特性を多角的に論ずる

## ★いわき市の基本的な情報

いわき市は、福島県浜通りの東南端に位置する市であり、面積は1,232.51平方キロメートルという全国で15番目に広大な面積をもつ市である。人口も、仙台市に次ぐ東北第2位の人口（平成27年時点）を所有しており、住民たちが日々の生活を市内で完結させていることが特徴だ。そのため、市内に様々な生活基盤や店などがそろっている。

また産業面では、いわき市は海などの自然の資源に恵まれているため農業や漁業も盛んである。そのうえスパリゾートハワイアンズをはじめとした観光業も力を入れており広大な土地を十分に利用した様々な産業が魅力である。

そして、いわき市といえば東日本大震災で大打撃を受けた市でもある。2011年の3月11日に起きた地震はマグニチュード9.0という巨大地震だったうえに、沿岸部は津波の被害にあった。また、いわき市の上部に位置する楡葉町、大熊町の原子力発電所の事故により放射線の被害にもあった。そして、いわき市は震災から長い時間をかけて復興しようとしているのである。しかし、いわき市が復興しようとするのはこれが初めてではなく、実はもともと炭鉱の町であったいわき市が石炭産業の撤退とともにさびれてしまったことからかつて復興を果たしているのである。そんな多くの魅力とともに様々な危機を乗り越えたいわき市について多角的な視点から見つめ、市がもっと良くなるためにはどのようなことが必要か考えていきたい。

## ☆いわき市の人口と居住地

いわき市の人口は318,704人であり（令和6年4月時点）マスタープランには人口の約9割が都市計画区域面積に住んでいるとしている。図1がいわき市の人口分布である。そして図2がいわき市の中心地の人口



図2 いわき市中心地の人口分布

分布図であるが、これを見てわかるように市が広いのに対し人口は各駅周辺、特にいわき駅の存在する平地区や漁港のある小名浜地区に集中していることが分かる。

また、いわき市に住む約9割の人がいわき市内の学校、職場に通学通勤しているため、昼夜間人口差があまり大きくないのも特徴の一つであるといえる。（図

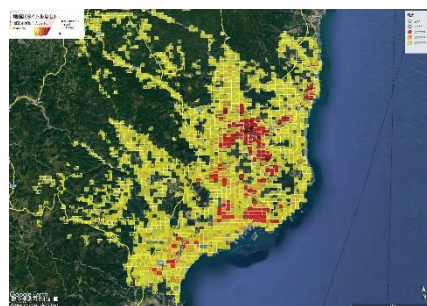


図1 いわき市全体人口分布

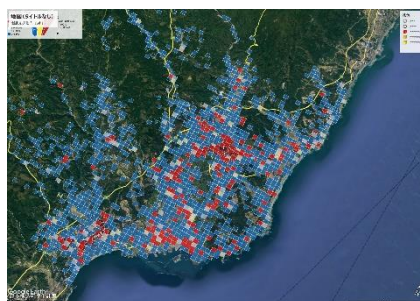


図3 昼夜間人口比

3)

そして近年人口面で課題となっているのが人口減少と少子高齢化である。図4はいわき市の今までとこれからの人口推移を表した図である。

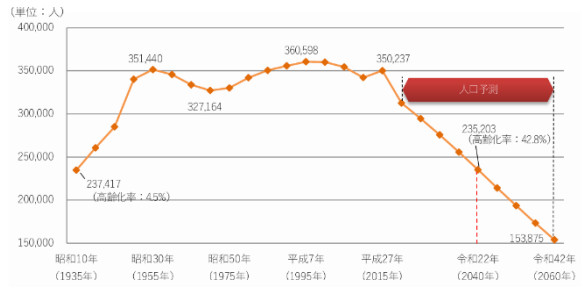


図4 いわき市の人口推移

出典 いわき市の都市計画に関する基本的な方針

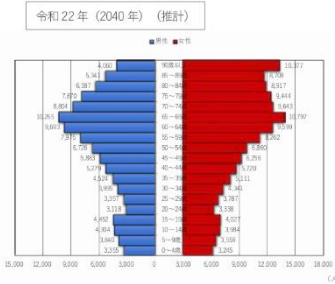


図5 いわき市の令和22年人口ピラミッド

出典 いわき市の都市計画に関する基本的な方針

これを見るとわかるように、人口は平成27年からは減少する一方である。また、令和22年の予想では高齢化率が42.8%と高い数値になっており、図5を見るとわかるようにつぼ型になっている。図6はいわき市の高齢化の状況である。青色が濃くなるにつれて高齢化率が高くなっていくが、色が濃いのは市の中心部から離れた沿岸部、そして山間部だ。もう少し詳しく見るために市の中心にさらに寄せた高齢化率の図を見てみる。図7はいわき市の中心部の高齢化率の図であるが、この図の黄色い道路は主要な国道を表している。よく見てみると、この国道周辺は高齢化率が低いのだ。そして一方で鉄道周辺の高齢化率は国道周辺の高齢化率よりも高くなっている。ここから、若い世代は鉄道という公共交通機関よりも車に利便性を感じて道路周辺に住んでいるということが分かり、いわき市の車依存度を読み取ることができると考えた。

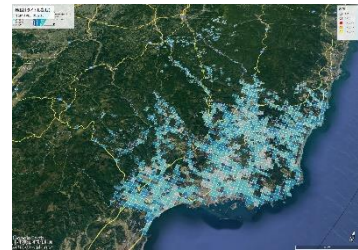


図6 いわき市高齢化の状況



図7 いわき市の中心部高齢化状況

### ☆産業面について

前述のとおり、いわき市というのは産業も盛んであり、第1、2、3次産業ともにすべてがいわき市の中で行われている。

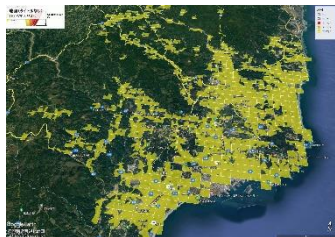


図8 いわき市第1次産業従事者数

まず、第1次産業からみていきたい。第1次産業というのは農業や林業、漁業のことであり、自然からの恵みを用いて行う産業である。いわき市はその広大な面積と自然用いて第1次産業も盛んにおこなわれている。特に、いわき市は海に面しているために小名浜港という港があり、漁業がおこなわれているところがほかの市と比べて特殊であると考えられる。

この立地と特徴を生かした高校もあり、小名浜港近くには福島県立小名浜海星高校では日本有数の水産業を学べる高校となっている。しかし、いわきでは漁業に関しては特に東日本大震災での大津波と福島第一原子力発電所の事故による放射線で大きな被害を受けた。その影響もあって従事者数が震災前から著しく減少しており、平成 22 年には 608 人であった水産業従事者数が令和 2 年には 388 人にまで減っている。(令和 5 年度いわき市の水産より) いわきの海は親潮と黒潮のぶつかる潮の目で、おいしい魚がたくさんとれる。水産業をどのようにして守っていくかも大切な問題である。



図 9 いわき市第 2 次産業従事者数

続いて第 2 次産業についてである。第 2 次産業は工業や建設業などだ。いわき市は工業も盛んであり、市内に 15 か所の工業団地を持っている。図 9 の中で濃い赤色となっているのはそれぞれ工業団地周辺である。そして、これらの工業団地はそれぞれ高速道路、国道、バイパス周辺に位置していることもわかるだろう。

そして最後に第 3 次産業についてだ。第 3 次産業は第 1, 2 産業に含まれない商業や観光業などのその他の産業のことであるが、図 10 を見てわかるように著しく第 3 次産業がさかんな場所がある。これはいわき市の中核となる地区、平地区のいわき駅前である。そして、北部にも第 3 次産業が盛んな地区があるが、それは小名浜地区である。どちらも商業が盛んであり、様々なお店がそろっている。また、小名浜地区にはアクアマリン福島という水族館もあり、一つの観光地になっている。第 3 次産業に関しては各駅周辺に広がっていることが分かり、特に平地区、そして次いで小名浜地区に広がっていることが分かった。

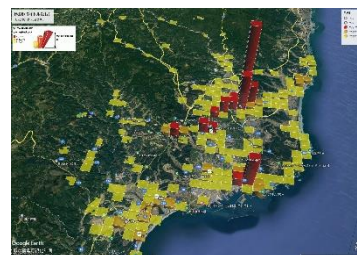


図 10 いわき市第 3 次産業従事者

## ☆防災面について

いわき市と言ったら欠かせないのが防災面に関する話題である。特に、海に面している市のため津波への備えは市全体で取り組まなければならない。図 11 はいわき市全体の津波のハザードマップだ。見てわかる通り沿岸部はどこも津波の被害にあう可能性がある。



図 12 いわき市沿岸部地区分け

出典 いわき市役所

いわきの沿岸は長いために地区ごとに分けられている。今回は図 12 の示す③平地区の沿岸について見ていきたいと思う。

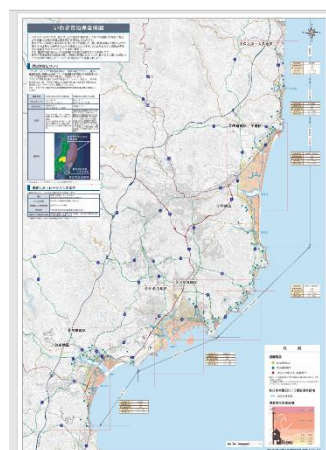


図 11 いわき市全体津波ハザードマップ

出典 いわき市役所

図 13 は③平地区の津波ハザードマップだ。この図では色が赤に近くなるほど津波被害の可能性が高くなる。この地区にはいくつかの小中学校も存在し、住民もそれなりの数がある。そして私が特にこの地区で興味深いと考えたのは図 13 上部に位置する川とその周辺である。津波と考えると沿岸部のみ危ないと考えてしまいがちだが、海とつながる



図 13.1 図 13 拡大図

川の周辺も津波による浸水被害の可能性があるので。(図 13.1)

ここで東日本大震災後の③平地区の沿岸部の人口について詳しく見ていき

たい。図 14 は③平地区の人口分布を表したものだ。図 13 と比べてみるとわかるように、沿岸部の人口は少なく、内陸部になるにつれ人口が増えていることが分かる。また、図 13 の中で標高が高く海が近くても津波の浸水被害の可能性がないと記されている場所には人が住んでいる。このような場所や内陸部は住民たちも津波の浸水被害の場所がないとわかっており東日本大震災後も人が住み続けている。では、図 13.1 に表したような場所はどうか。このような

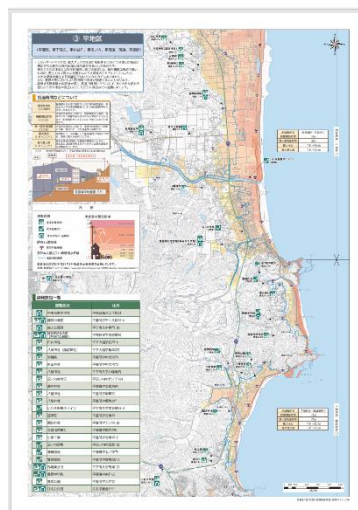


図 13 ③平地区の津波ハザードマップ

出典 いわき市役所



図 14 ③平地区の人口分布 (2015 年)



図 15 図 13.1 対応図

場所に関してもほかの内陸部と比べて住んでいる人が少ないように見える。これは、住民たちがしっかりと危険な地区を把握している証であると考える。また、この地区には今後津波が起きた時のために防災公園などが設置されている。そのため、今後また同じような被害が起きた時への対策もしっかりされていると考える。

#### ☆公共交通機関利用と車社会化について

私はいわき市の大きな特徴として車社会化があげられると考える。マスタープランによるといわき市民の 7 割程度が移動手段として自家用車の利用をしているようだ。図 16 (出典いわき市役所) はいわき市と他の中核市利用交通手段分担率の比較である。これを見てもわかるよ

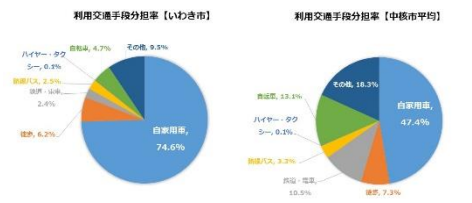


図 16 利用交通手段分担率比較

出典 いわき市役所

うにいわき市の自家用車使用率はかなり高い。図17は都市構造可視化計画サイトを用いていわき市の通勤通学時の公共交通機関利用率を可視化したものだ。駅周辺も含めてどの地区においても公共交通機関の利用率が低いのだ。このことからいわき市の生活がいかんにかに車に支えられているか、そして公共交通機関の利用率がいかんにかに低いかの2点が分かる。少子高齢化が今後進むと運転ができない高齢者も増えることが予想される。そのため、公共交通機関の発達をして車に頼らない生活ができるようにすることが大切であると考え。

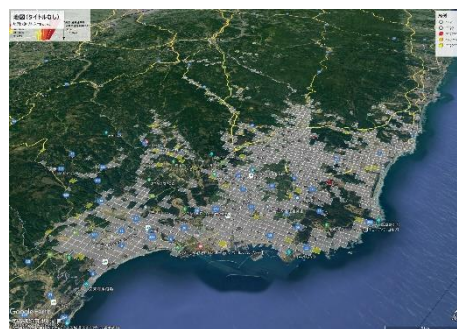


図17 いわき市の通勤通学における公共交通機関利用率

(3) (2) の情報をもとにマスタープランに批判を加え意見する  
☆全体について

いわき市は面積が広く、地区ごとにも様々な特色があるためにマスタープランを一つにまとめることはとても大変であったと考える。しかし、そんなマスタープランのコンセプトともいえるような「コンパクト・プラス・ネットワークな街づくり」というのがいわき市にぴったりでとても良いと考えた。拠点となる地区をまとめ、そこに都市の基盤を集める。そして、その拠点の地区同士を公共交通機関などのネットワークで結ぶ。このコンセプトが実現したら、いわき市は今までよりもさらに過ごしやすく便利な街ができると考えた。また、観光地としても魅力のある街であるが広くて観光地が点々としているために車無しの観光を行うことが難しいと考える。そのため、観光客にも優しい街ができるのではないだろうか。

マスタープランの内訳についても各地区にそれぞれ違った課題や取り組みが書かれており、隅々までしっかりと計画したいという思いが伝わった。しかし、面積が広く山間部や林間部が多いため都市計画外の地域がとても広いという点が気になった。都市計画外の地域に対してどのような配慮ができるかというのも今後の課題であると考え。

☆公共交通機関に対する意見

前述のとおり、いわき市の課題として公共交通機関利用率の低さと車社会化があげられる。いわき市は都市計画にあたって、コンパクトシティとともに広いいわき市のそれぞれの地区を結ぶネットワークが大事であり、コンパクト・プラス・ネットワークな街づくりを行おうとしている。しかし、私は今のままであると地区と地区をつなぐネットワークの面が弱いと考える。特に今後は車に乗ることができない高齢者も増え、今は車でつなげているネットワークが立たれてしまう可能性がある。私は、いわき市においてもっと公共交通機関の利用率を上げるための取り組みをすべきだと考えた。特に、電車の路線が少ないいわき市にとってはバスというのはとても重要な公共交通機関の一つだ。私はマスタープ

ランの中でもっとバスについての意見があるべきだと考えた。私がマスタープランの改定責任者であったらいわき市のバス会社である常磐交通バス会社と協力して街の移動がもっと便利になるような路線や取り組みの提案をする。

人口減少と少子高齢化とともにバス運転者の減少が起きる、しかしバスを必要とする人は増えるというジレンマが起こり解決が難しい問題ではあるが、いわき市全体で取り組んでいかなければならない問題であると考えている。

#### ☆防災の面のついて

いわき市は津波被害の防災面についてはかなりの対策がされていると考える。しかし、2019年に起きた台風19号のような浸水被害に関しての防災がしっかりなされてはいないと考えた。特にこの台風で被害が大きかった地区に関して、もう少しマスタープランでの災害対策が書かれるべきであると感じた。

(4) 都市構造可視化計画サイトをもっと良いものにするためには

今回このサイトを利用してみて改善すべきだと考えたのは

- ① ネットワークの弱さ
- ② さらに多くの調査の可視化

の2つである。①に関しては、少しでも回線が混雑すると使えなくなってしまう大変不便に感じた。その改善ができないだろうか考える。また、②に関しては今回このサイトを使って非常に興味深いと感じたからこそ考えた。例えば、いわき市においての公共交通機関の利用率は可視化できるのに対して自家用車所持率の可視化はできなかった。可視化することはとても面白いので、民間や市の団体で行っている調査に対しても可視化ができようになると面白いと考えた。

## 参考文献

いわき市のプロフィール. (2024年6月5日). 参照先: いわき市:  
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000004062/index.html>

いわき市津波ハザードマップ【令和4年改訂】. (2023年1月26日). 参照先: いわき市:  
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000003871/index.html>

いわき市都市建設部都市計画課. (令和元). いわき市の都市計画に関する基本的な方針. いわき市.

いわき市農林水産部水産課. (令和5). 令和5年度 いわき市の水産. いわき市.

公共交通機関を利用しよう! (2021年7月29日). 参照先: いわき市:  
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1599804100269/index.html>

東北地方の人口ランキング。(日付不明). 参照先: ランキングサイト rank-j:  
<http://databasejapan.com/?p=355>

分譲工業団地情報。(2023年5月2日). 参照先: いわき市:  
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000002869/index.html>